

# 第1回公認心理師国家試験

## 分析速報

2018年9月11日 河合塾 KALS

2018年9月9日(日曜日)に、第1回公認心理師国家試験が行われました。受験生の方々は、未だ過去問のない国家試験ということもあり、先の見えない不安と混乱の中での受験対策であったかと思います。また、実際に試験が始まってみれば、5つの選択肢から2つを選ぶ問題があることなど、予想していなかった出題形式に驚かれた方もいるでしょう。本当にお疲れさまでした。

受験された方はもちろんのこと、今後受験される予定の方も、今回の国家試験がどのような形式で、どのような難易度の問題だったのか、気になることでしょう。そこで、河合塾 KALS の講師による公認心理師国家試験の分析を以下に紹介します。受験された方は受験の振り返りに、今後受験される予定の方は今後の指針に、役立てて頂ければと思います。

(注) 北海道会場のみ、地震に伴い公認心理師国家試験が9月9日より延期されております。しかし他の会場では予定通り試験は実施され、問題は回収されずに持ち帰りが許可されました。よって、北海道会場の試験問題は他の会場とは異なる問題であることが予想されます。本分析速報の内容が北海道会場の試験問題と適合するとは限らないことを、あらかじめご承知ください。

### 1. 公認心理師試験 基本情報

- 午前の部(10時~12時)、午後の部(13時半~15時半)各120分の2部構成。
- 午前の部・午後の部ともに、問題数は77題。全154題。
- 1問あたりにかかる時間は、約1分半。(120÷77=1.558…)
- すべての問題は、マークシート形式。(マークシート試験のみで、面接等はない)
- マークシート用紙はAとBのいずれかが渡される。用紙Aは塗りつぶす①~⑤(ないしは①~④)が横にならんでおり、用紙Bは①~⑤(ないしは①~④)が縦にならんでいる。試験問題に違いはない。

- 解答形式は5肢択一（5つの選択肢から1つを選ぶ形式）が大半だが、一部4肢択一（4つの選択肢から1つを選ぶ形式）や5肢択二（5つの選択肢から2つを選ぶ形式）の問題が存在する。臨床心理士試験のような○×の組み合わせを選択する問題はない。
- 不適切な内容の選択肢を選ぶ問題が一部あるが、特定の番号帯に固めて配置されている。例えば、午前の部の30番～39番は、すべて不適切な内容の選択肢を選ぶ問題である。さらに「不適切なものを選びなさい」と下線も引いてあるので、「適切を選ぶか、不適切を選ぶか」について、1問1問常に気を張りながら進める必要はない。
- 午前の部・午後の部ともに一般問題58題のあとに19題の事例問題という構成。例えば午前の部であれば、全77題のうち問題番号59番～77番が事例問題。このように事例問題は、最後に固めて出題されているため、77問を均等に進めるペースで解いていくと、時間が足りなくなる恐れあり。実際、ペース配分を乱された人もいるだろう。
- 臨床心理士試験のように1つの事例につき、複数の問題が出題されることはなく、1事例につき1つの問題。事例問題は全38題であったため、38の事例が出題されたことになる。1つ1つの事例の文章の長さは短めで、5行～10行程度。

表1 問題種別

	前半	後半	全体	割合
一般問題	58題	58題	116題	75.3%
事例問題	19題	19題	38題	24.7%
合計	77題	77題	154題	100.0%

表2 解答形式種別（選択肢）

	前半	後半	全体	割合
5肢択一	56題	49題	105題	68.2%
4肢択一	11題	15題	26題	16.9%
5肢択二	10題	13題	23題	14.9%
合計	77題	77題	154題	100.0%

表3 解答形式種別（適切・不適切）

	前半	後半	全体	割合
適切選択	61題	66題	127題	82.5%
不適切選択	16題	11題	27題	17.5%
合計	77題	77題	154題	100.0%

※適切選択…「正しいものを選びなさい」「最も適切なものを選びなさい」などの形式。  
 ※不適切選択…「誤っているものを選びなさい」「最も不適切なものを選びなさい」などの形式。

## 2. 問題の難易度（1）

問題の難易度を以下の3段階で判定した。なお、この判定基準および、各設問の難易度の判定は河合塾 KALS 独自のものであり、日本心理研修センターが発表したものではない。

- ◇ 難易度A…正解することは難しいと思われる問題。
- ◇ 難易度B…解答に自信を持ちにくいと思われる問題。
- ◇ 難易度C…比較的答えやすいと思われる問題。

以上の基準で全154題の判定を行った。その集計結果が以下の表4である。（各問題の判定については巻末参照）

表4 問題の難易度

難易度	前半	後半	全体	割合
A	5題	4題	9題	5.8%
B	41題	40題	81題	52.6%
C	31題	33題	64題	41.6%
全体	77題	77題	154題	100.0%

公認心理師試験後の感想として「難しかった」「出来た感触がない」という意見もある中で「そこまで難しいとは思わなかった」という声も聞かれた。難易度に関して意見が分かれる原因は、上記の表4によれば「B問題が半分を占めている」からかもしれない。

B問題は「まったく分からないわけでもないが、自信があるわけではない」という問題だ。答えの候補はいくつかあるが、1つに絞り込む根拠に欠け、とりあえず解答してみた…という受験生は多かったのではないだろうか。「出来そうで、出来ない問題」が続くのは、辛かったことであろう。とはいえ、A問題のように「全く歯が立たない」問題は決して多くなかった。「意外となんとかなった」という感想を持った者がいるのも不思議ではない。

仮にC問題を正解率80%、B問題を正解率50%、A問題を正解率20%とした時の正解数は以下の通りとなる。

$$64 \text{ 題} \times 0.8 + 81 \text{ 題} \times 0.5 + 9 \text{ 題} \times 0.2 = 93.5 \text{ 題}$$

$$93.5 \div 154 \times 100 = 60.71\% \rightarrow 60.7\%$$

以上のことから、約6割が合否を分けるラインになると考えられる。これは、厚生労働省・公認心理師カリキュラム等検討会報告書で示された「合格基準は正答率60%程度以上」というラインとほぼ同じである。とはいえ、1問1点ではなく、1問2点の問題も存在するかもしれない（5肢択二の問題など）うえに、何人の合格を出すかによって合否ラインは大きく変動するため、上記の話はあくまで参考程度に留めて頂きたい。

### 3. 問題の難易度（2）

次に、解答形式ごとの難易度を集計した。それが以下の表5である。

表5 解答形式（選択肢）別・問題の難易度

難易度	5肢択一		4肢択一		5肢択二		全体	
	題数	割合	題数	割合	題数	割合	題数	割合
A	6題	5.7%	3題	11.5%	0題	0.0%	9題	5.8%
B	49題	46.7%	13題	50.0%	19題	82.6%	81題	52.6%
C	50題	47.6%	10題	38.5%	4題	17.4%	64題	41.6%
全体	105題	100%	26題	100%	23題	100%	154題	100%

5肢択一から4肢択一、5肢択二に移るに従い、C問題の割合が減り（47.6%→38.5%→17.4%）、B問題の割合が増えている（46.7%→50.0%→82.6%）。

特に5肢択一から4肢択一になった時にC問題の割合が減っている点に注目したい。5肢択一から4肢択一になったことで本来は解きやすくなるはずなのに、問題の難易度のために、むしろ解きにくくなっていたのである。この点も、受験者を動揺させたポイントになるだろう。今後の受験者は「問題の難易度が上がったからこそ、4肢択一になったのだ」と考えるようにしたい。

5肢択二になった段階でB問題が急増しているのは、やはり2つ選ぶことの難しさにある。「1つ目はすぐに選べたが、もう1つが選びきれない」「候補の選択肢が3つあり1つを削らなければならない」あるいは「候補が1つしかなく、もう1つを無理やり見つけなければならない」など、色々なケースが想定される。（この5肢択二問題は、2つ選んだうちの片方だけでも正答している場合に部分点が得られるのか、それとも完全解答が求められるのかは、まだ不明である。本資料においては、とりあえず完全解答であることを想定して難易度設定を行っている。）

表6 解答形式（適切・不適切）別・問題の難易度

難易度	適切選択		不適切選択		全体	
	題数	割合	題数	割合	題数	割合
A	7題	5.5%	2題	7.4%	9題	5.8%
B	71題	55.9%	10題	37.0%	81題	52.6%
C	49題	38.6%	15題	55.6%	64題	41.6%
全体	127題	100.0%	27題	100.0%	154題	100.0%

上記の表6は、適切な選択肢を選ぶ問題と、不適切な選択肢を選ぶ問題の難易度の差である。比較すると適切選択のB問題が多い。このことから公認心理師国家試験は、「何が適切か」を判断することが難しい問題が多かったと言えよう。対して、不適切な選択肢を選ぶ問題は、C問題が多かった。

最後に、事例問題の難易度についてまとめたものが、以下の表7である。事例問題に対しては、難易度の構成が全体とほぼ変わらなかった。事例についても「何が適切か判断に迷う問題」が多かったと言えよう。

事例問題の特徴としては「初期対応」を問う問題が多かったことが挙げられる。事例問題 38 題のうち 9 題（約 23.7%）が、「最初の対応として最も適切なもの」「まず行うべき対応として最も適切なもの」という問いであった。

また、事例問題の中には問 136 や問 150 のように、心理学の実験が紹介され改善方法や実施方法を求める問題や、問 145 のように複数の生徒の様子から内発的動機づけに基づいた活動をしている生徒を選ぶ問題など、必ずしも心理支援の現場とは限らない事例が出題されていたことも特徴的である。

表7 問題種別の難易度

難易度	事例問題		全体	
	題数	割合	題数	割合
A	1 題	2.6%	9 題	5.8%
B	21 題	55.3%	81 題	52.6%
C	16 題	42.1%	64 題	41.6%
全体	38 題	100.0%	154 題	100.0%

## 4. ブループリントとの対応（1）

公認心理師国家試験の数少ない事前の手掛かりとして、日本心理研修センターより発表された「ブループリント」がある。ブループリントとは公認心理師試験の設計表のことで、この設計表に基づき、公認心理師試験が作成されることが発表された。また、ブループリントには公認心理師試験における各項目の出題割合や主なキーワードが記載されていた。

では実際に行われた公認心理師国家試験は、ブループリントの内容がどの程度反映されていたのだろうか。そこで以下の基準で、第1回公認心理師試験の問題を分類した。

- ○ …ブループリントに記載のキーワードが、直接的に出題された問題
- △ …ブループリントに記載のキーワードと、類似・関連した内容が出題された問題。
- × …ブループリントに記載のキーワードとの類似性・関連性がない問題。

この基準で事例問題 38 題を除く 116 題を判定し、まとめたものが以下の表8である。なお、この基準と判定は河合塾 KALS 独自のものである。（各問題の判定は、巻末を参照）

表8 ブループリント反映度の判定

判定	前半	後半	全体	割合
○	32 題	30 題	62 題	53.4%
△	21 題	26 題	47 題	40.5%
×	5 題	2 題	7 題	6.1%
合計	58 題	58 題	116 題	100.0%

- …ブループリントに記載のキーワードが、直接的に出題された問題
- △ …ブループリントに記載のキーワードと、類似・関連した内容が出題された問題。
- ×

(判定例1)

問1は「サイコロジカル・ファーストエイド」に関する問題であった。ブループリント大項目⑩「健康・医療に関する心理学」の小項目の中に「心理的応急措置<サイコロジカル・ファーストエイド>」が含まれているため、問1は○という判定を行った。(なお、サイコロジカル・ファーストエイドは、問124にも出題されている)

(判定例2)

問4は「森田療法」に関する問題であった。ブループリント大項目⑮「心理に関する支援」の小項目の中に「心理療法」が含まれており、森田療法は心理療法の1つであるため、問4は△という判定を行った。

(判定例3)

問6は「系列位置効果」に関する問題であった。ブループリント大項目⑦「知覚及び認知」の小項目の中には「短期記憶・長期記憶」が含まれている。系列位置効果は、そのメカニズムが短期記憶・長期記憶によって説明される用語であるため、ブループリントのキーワードに関連した出題と判断し、問6は△という判定を行った。

受験生からは「ブループリントと関係のない出題が多かった」「ブループリントを対策した意味があまりなかった」という声が多く聞こえてきたので、表8を見て「判定×

また判定例3のように、ブループリントに記載されているキーワードの関連用語と解釈することで、大半の問題を「ブループリントからの出題」と考えることが出来てしまう。

表8では、ブループリントに記載のキーワードと関連性のない「判定×」が7題あるが、この7題も解釈によっては、ブループリントに記載のキーワードと関連している内容と捉えることも可能であろう。

つまり大半の問題は、ブループリントのキーワードやそれに関連した内容であったと言えることができる。そのため、今後もブループリントのキーワードを軸にした対策が求められるだろう。だが、ブループリントのキーワードの直接的な理解だけでは、対策が十分とは言えない。ブループリントの内容を軸に、関連用語まで含めて幅広い理解が求められる。

(なお、問98「学校における一次的・二次的・三次的支援サービス」のように、ブループリントには記載はないが、現任者講習会テキスト(金剛出版)に記載がある問題もあった)

## 5. ブループリントとの対応(2)

次に、ブループリントの「出題割合」に注目する。ブループリントには、例えば大項目④「心理学・臨床心理学の全体像」ならば出題割合「約3%」といったように、大項目ごとの出題割合が記載されていた。そこで、第1回公認心理師国家試験の全ての問題について、どの大項目に相当するか判定し、まとめたものが次ページの表9である。(各問題の判定は、巻末を参照)

どの大項目に相当するかの判定については、河合塾KALS独自の判定であり、心理研修センターより発表されたものではない。また、複数の領域にまたがる出題も多くみられた。その場合は以下の2点を優先的に判定した。

- ① ブループリントにキーワードの記載がある大項目を優先する。

問19「ひきこもりの支援」については、大項目⑩「健康・医療に関する心理学」に「ひきこもり」というキーワードがあるため、大項目⑩と判定した。同様に、問34「自殺対策におけるゲートキーパー」についても、大項目⑩に「自殺対策」というキーワードがあるため、大項目⑩と判定した。

- ② フィールドが明記されている場合でも、問題内容を優先する。

問140「50歳女性・要介護2の母親との生活」について、病院の公認心理師の対応を問う問題ではあるが、「要介護2」というキーワードや問題の内容から、大項目⑩「健康・医療に関する心理学」よりも、大項目⑪「福祉に関する心理学」の方が適切であると判断し、大項目⑪と判定した。

表9 ブループリント大項目の分類

	内容	出題数	出題割合	計算
①	公認心理師としての職責の自覚	5 題	9%	13.9 題
②	問題解決能力と生涯学習	1 題		
③	多職種連携・地域連携	1 題		
④	心理学・臨床心理学の全体像	3 題	3%	4.6 題
⑤	心理学における研究	4 題	2%	3.1 題
⑥	心理学に関する実験	4 題	2%	3.1 題
⑦	知覚及び認知	4 題	2%	3.1 題
⑧	学習及び言語	2 題	2%	3.1 題
⑨	感情及び人格	3 題	2%	3.1 題
⑩	脳・神経の働き	5 題	2%	3.1 題
⑪	社会及び集団に関する心理学	2 題	2%	3.1 題
⑫	発達	8 題	5%	7.7 題
⑬	障害者（児）の心理学	4 題	3%	4.6 題
⑭	心理状態の観察及び結果の分析	12 題	8%	12.3 題
⑮	心理に関する支援	12 題	6%	9.2 題
⑯	健康・医療に関する心理学	15 題	9%	13.9 題
⑰	福祉に関する心理学	10 題	9%	13.9 題
⑱	教育に関する心理学	16 題	9%	13.9 題
⑲	司法・犯罪に関する心理学	7 題	5%	7.7 題
⑳	産業・組織に関する心理学	10 題	5%	7.7 題
㉑	人体の構造と機能及び疾病	5 題	4%	6.2 題
㉒	精神疾患とその治療	10 題	5%	7.7 題
㉓	公認心理師に関する制度	11 題	6%	9.2 題
㉔	その他	0 題	2%	3.1 題

※計算…154 題という総問題数と出題割合から算出される出題数を表す。

この大項目の分類については、繰り返しになるが、心理研修センターの発表によるものではない。各問題がどの大項目に分類されるかは、最終的には問題作成者でなければ分からない。その点を加味して頂き、あくまで参考程度に留めてもらいたい。

しかし、それでも目を引くのが大項目①～③の「公認心理師の職責」関係の出題の少なさである。多くの受験生が大項目①～③の出題割合 9% に注目し、公認心理師法や、現任者講習テキストの対応部分を熟読して試験に臨んだと思われるが、かなり肩透かしとなっ



たことであろう。マークシート記入方法に関する例題が、公認心理師の名称や公認心理師法に関する問題であり、前半の部と後半の部で3問ずつある（例題の内容は同じ）。これで公認心理師に関する問題が全13問となり約9%に近くなるが、これでブループリントの出題割合を確保したとなれば、笑えない話である。

実際には、大項目①の中に「心理検査」「心理療法」「チーム医療」「虐待への対応」「スクールカウンセリング」という他の大項目と明確に重複するキーワードも含まれていたことが原因だろう。例えば「心理検査」の問題は、河合塾 KALS の分類では大項目⑭「心理状態の観察及び結果の分析」に入れたが（入れざるを得なかったが）、問題作成者は大項目①として「心理検査」の問題を作った可能性がある。結果として大項目①～③と判定された問題数が極端に少なくなってしまう可能性がある。

他の大項目については、出題割合に近い問題数であり、計算上の問題数とのズレも「各問題がどの大項目に該当するか」という判断に伴う誤差の範囲と考えられる。

## 6. 総評

公認心理師国家試験が始まるまでは、ブループリントの「公認心理師の職責」「関係行政論」に注目が集まり、果たして心理職と言えるのかという疑問の声が聞こえた。だが実際に試験問題を見ると、予想以上に「心理学の国家試験」だったのではないだろうか。心理学の専門知識に関して幅広く出題されており、法律など心理学外の領域ばかりの対策では、到底太刀打ちできない問題であったと思われる。今後の公認心理師対策は、ブループリントのキーワードを軸として、関連用語まで広げながら幅広く「心理学」を学んでいく姿勢が求められると言えよう。

難易度はトータルで判断すれば易しすぎず、難しすぎずとも言え、結果的には絶妙な難易度であったように思われる。とはいえ、事例問題を中心に立場や解釈によって解答が分かれそうな問題がいくつかあるのも事実である。臨床心理士試験が、解答が発表されることによって「臨床心理士として求められる姿」が明確になっていったように、今後公認心理師試験についても、解答が発表されることにより「公認心理師として求められる姿」が明確になっていくだろう。

((謝辞))

初の公認心理師国家試験に対し、河合塾 KALS の対策講座を受講してくださった方、模擬試験をご利用していただいた方、皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

2018年（平成30年）9月11日

河合塾 KALS

## 7. 巻末資料 第1回公認心理師国家試験 各設問分析

BP…ブループリント大項目の番号。

反映…ブループリントの内容がどの程度反映された問題であったか。

- ○ …ブループリントに記載のキーワードが、直接的に出題された問題
- △ …ブループリントに記載のキーワードと、類似・関連した内容が出題された問題。
- × …ブループリントに記載のキーワードとの類似性・関連性がない問題。

難度…問題の難易度がどの程度であったか。

- 難易度A…正解することは難しいと思われる問題。
- 難易度B…解答に自信を持ちにくいと思われる問題。
- 難易度C…比較的答えやすいと思われる問題。

解答形式…マークシートを塗りつぶす内容はどうか。

- 5肢択一 …5つの選択肢から1つを選ぶ形式。
- 4肢択一 …4つの選択肢から1つを選ぶ形式。
- 5肢択二 …5つの選択肢から2つを選ぶ形式。

選択内容…どのような内容を正解として答えるか。

- 適切選択…「正しいものを選びなさい」「最も適切なものを選びなさい」などの形式。
- 不適切選択…「誤っているものを選びなさい」「最も不適切なものを選びなさい」などの形式。

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
1	⑯	サイコロジカル・ファーストエイド	○	C	5肢択一	適切選択
2	⑰	児童虐待と緊急一時保護	△	B	5肢択一	適切選択
3	①	公認心理師が指示を受けるべき者	○	C	5肢択一	適切選択
4	⑮	森田療法	△	B	5肢択一	適切選択
5	④	オペラント行動の基礎研究者名	△	C	5肢択一	適切選択
6	⑦	系列位置効果	△	C	5肢択一	適切選択
7	⑧	条件づけ	○	B	5肢択一	適切選択
8	⑨	パーソナリティや自我状態の心理検査	○	C	5肢択一	適切選択
9	④	特性16因子の研究者名	×	C	5肢択一	適切選択
10	⑩	成人の脳波	○	A	5肢択一	適切選択
11	⑩	大脳皮質の機能局在	○	B	5肢択一	適切選択
12	⑰	児童虐待	○	C	5肢択一	適切選択
13	⑪	社会的認知のバイアス	△	C	5肢択一	適切選択
14	⑪	集団思考	△	B	5肢択一	適切選択
15	⑫	ライフサイクル論	○	B	5肢択一	適切選択

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
16	⑭	バウムテスト	△	B	5肢択一	適切選択
17	⑭	P-F スタディ	△	B	5肢択一	適切選択
18	⑭	ケース・フォーミュレーション	○	C	5肢択一	適切選択
19	⑯	ひきこもりの支援	○	B	5肢択一	適切選択
20	⑮	対象喪失に対する心理的支援	△	B	5肢択一	適切選択
21	⑰	中途障害者の障害受容	△	C	5肢択一	適切選択
22	⑨	成功裏に遂行できる感覚	△	C	5肢択一	適切選択
23	⑱	学習性無力感	○	C	5肢択一	適切選択
24	㉑	パーキンソン症状	△	B	5肢択一	適切選択
25	⑩	自律神経系	○	C	5肢択一	適切選択
26	㉒	パニック障害と併発しやすい症状	△	C	5肢択一	適切選択
27	㉓	特別支援教育に関する制度	○	B	5肢択一	適切選択
28	㉓	産業保健に関する制度・法律	△	B	5肢択一	適切選択
29	㉓	労働者の心の健康保持増進のための指針	○	C	5肢択一	適切選択
30	①	公認心理師法	○	C	5肢択一	不適切選択
31	⑫	乳児の発達的特徴	△	B	5肢択一	不適切選択
32	⑫	ADHD の診断や行動特徴	○	C	5肢択一	不適切選択
33	㉒	せん妄発症のリスク因子	△	B	5肢択一	不適切選択
34	⑯	自殺対策におけるゲートキーパー	△	C	5肢択一	不適切選択
35	㉒	解離性（転換性）障害	△	C	5肢択一	不適切選択
36	⑱	問題行動を起こした児童生徒への指導	△	C	5肢択一	不適切選択
37	㉑	ワーク・ライフ・バランス	○	B	5肢択一	不適切選択
38	㉓	いじめ防止対策推進法	○	B	5肢択一	不適切選択
39	㉓	障害者の雇用の促進等に関する法律	○	B	5肢択一	不適切選択
40	⑮	アウトリーチ	○	C	4肢択一	適切選択
41	⑤	重回帰分析	○	A	4肢択一	適切選択
42	⑧	言語の障害	○	B	4肢択一	適切選択
43	⑤	乳児期の発達に関する心理学的研究手法	×	B	4肢択一	適切選択
44	⑭	関与しながらの観察	○	B	4肢択一	適切選択
45	㉓	発達障害及びその支援	○	B	4肢択一	適切選択
46	②	スーパービジョン	○	B	4肢択一	不適切選択
47	①	秘密保持に関する留意点	○	C	4肢択一	不適切選択
48	㉒	病的窃盗（窃盗症）	△	A	4肢択一	不適切選択

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
49	⑦	ヒューマンエラー	×	A	4 肢択一	不適切選択
50	⑮	認知行動療法	△	C	5 肢択二	適切選択
51	⑰	改訂版長谷川式簡易知能評価スケール	○	B	5 肢択二	適切選択
52	⑱	教育現場における開発的カウンセリング	×	B	5 肢択二	適切選択
53	⑲	裁判員裁判	○	B	5 肢択二	適切選択
54	㉑	緩和ケア	○	B	5 肢択二	適切選択
55	㉒	向精神薬とその副作用	△	B	5 肢択二	適切選択
56	⑲	保護観察	○	B	5 肢択二	適切選択
57	㉓	医療法	○	B	5 肢択二	適切選択
58	㉓	精神保健福祉法	○	B	5 肢択二	適切選択
59	⑯	3 歳男児・担当医からの相談	事例	C	5 肢択一	適切選択
60	⑯	33 歳女性・精神科外来	事例	C	5 肢択一	適切選択
61	⑱	10 歳女児・小学校への行きしぶり	事例	B	5 肢択一	適切選択
62	㉒	35 歳女性・企業内の心理相談室	事例	B	5 肢択一	適切選択
63	⑱	13 歳男子・インフォームド・コンセント	事例	B	5 肢択一	適切選択
64	⑯	55 歳男性・生活習慣の改善	事例	B	5 肢択一	適切選択
65	㉑	50 歳男性・筋委縮性側索硬化症	事例	A	5 肢択一	適切選択
66	⑯	55 歳男性・緩和ケア	事例	B	5 肢択一	適切選択
67	⑯	28 歳男性・ひきこもり	事例	B	5 肢択一	適切選択
68	⑱	12 歳男子・状態の見立て	事例	C	5 肢択一	適切選択
69	⑱	40 歳男性・教師の相談	事例	C	5 肢択一	適切選択
70	⑱	42 歳女性・息子の不登校の相談	事例	B	5 肢択一	適切選択
71	⑱	15 歳男子・スクールカウンセラーの対応	事例	C	5 肢択一	適切選択
72	㉒	35 歳男性・社内の相談室	事例	C	5 肢択一	適切選択
73	⑯	26 歳男性・来院した患者への治療	事例	C	5 肢択一	適切選択
74	⑰	75 歳女性・独身の息子との関係	事例	C	5 肢択一	不適切選択
75	⑰	24 歳男性・発達障害者支援センター	事例	B	5 肢択一	不適切選択
76	⑭	19 歳女性・WAIS-III の結果の解釈	事例	B	4 肢択一	適切選択
77	㉒	30 歳女性・社内の相談室での対応	事例	B	5 肢択二	適切選択
78	③	公認心理師の地域連携	○	B	5 肢択一	適切選択
79	④	認知心理学の全体像	○	C	5 肢択一	適切選択
80	⑮	認知療法	△	C	5 肢択一	適切選択
81	⑥	目的を偽って実験を行う行為	△	C	5 肢択一	適切選択

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
82	⑦	心理物理学の実験	○	A	5肢択一	適切選択
83	⑥	観察法による記録の方法	△	B	5肢択一	適切選択
84	⑦	長期記憶	○	B	5肢択一	適切選択
85	⑫	コミュニケーションと言語発達	△	C	5肢択一	適切選択
86	⑨	基本感情	○	A	5肢択一	適切選択
87	⑩	中枢神経系・意識水準の維持	△	A	5肢択一	適切選択
88	⑩	視床下部の機能	○	B	5肢択一	適切選択
89	⑫	J. Piaget の発達理論	○	C	5肢択一	適切選択
90	⑬	ストレンジ・シチュエーション法	△	B	5肢択一	適切選択
91	⑫	自閉スペクトラム症	○	C	5肢択一	適切選択
92	⑭	3歳の幼児に用いるアセスメントツール	△	B	5肢択一	適切選択
93	⑮	災害時の支援	○	C	5肢択一	適切選択
94	㉑	依存と依存症	○	A	5肢択一	適切選択
95	⑯	ストレスコーピング	△	B	5肢択一	適切選択
96	⑯	被災者のこころのケア	△	B	5肢択一	適切選択
97	⑬	知的障害	○	B	5肢択一	適切選択
98	⑱	学校における一次的～三次的援助サービス	×	B	5肢択一	適切選択
99	⑲	少年事件の処理手続	○	C	5肢択一	適切選択
100	㉒	ワーク・モチベーション研究	×	B	5肢択一	適切選択
101	㉒	神経性無食欲症	△	C	5肢択一	適切選択
102	⑮	軽症うつ病エピソードへの心理療法	△	C	5肢択一	適切選択
103	㉒	統合失調症	○	B	5肢択一	適切選択
104	㉒	副作用（アカシジア）	△	C	5肢択一	適切選択
105	⑲	親権を一時的に停止する権限	△	B	5肢択一	適切選択
106	⑲	少年院	○	C	5肢択一	適切選択
107	①	心理職の行動（多重関係）	○	C	5肢択一	不適切選択
108	①	公認心理師が行う行為	○	C	5肢択一	不適切選択
109	⑭	MMP I	△	C	5肢択一	不適切選択
110	⑫	反応性アタッチメント障害	○	B	5肢択一	不適切選択
111	㉒	リーダーシップ	○	B	5肢択一	不適切選択
112	㉓	労働者の心の健康保持増進のための指針	○	B	5肢択一	不適切選択
113	⑤	有意水準	△	B	4肢択一	適切選択
114	⑮	フォーカシング指向心理療法	△	C	4肢択一	適切選択

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
115	⑭	T A Tの実施と解釈	△	C	4肢択一	適切選択
116	⑮	エビデンスベースト・アプローチ	△	C	4肢択一	適切選択
117	⑮	社会構成主義と心理的支援	○	B	4肢択一	適切選択
118	⑱	効果的な学習者の解釈（原因帰属）	○	B	4肢択一	適切選択
119	⑲	精神鑑定・医療観察法	○	B	4肢択一	適切選択
120	㉓	D V防止法	○	C	4肢択一	不適切選択
121	⑮	共感的理解	○	C	4肢択一	不適切選択
122	⑭	心理教育的アセスメント	△	C	4肢択一	不適切選択
123	⑱	教職員へのコンサルテーション	○	C	4肢択一	不適切選択
124	⑯	サイコロジカル・ファーストエイド	○	C	5肢択二	適切選択
125	⑫	高齢者の心理学的適応	○	C	5肢択二	適切選択
126	⑬	I C Fとその考え方	○	C	5肢択二	適切選択
127	⑬	特別支援教育における通級指導	△	B	5肢択二	適切選択
128	⑮	日本で開発された心理療法	△	B	5肢択二	適切選択
129	⑯	心身症	○	B	5肢択二	適切選択
130	㉐	休業した労働者の職場復帰支援	△	B	5肢択二	適切選択
131	㉒	認知症	△	B	5肢択二	適切選択
132	㉒	ADHD の併存障害	△	B	5肢択二	適切選択
133	㉑	2型糖尿病	△	B	5肢択二	適切選択
134	⑯	うつ病の患者を精神科医に紹介すべき症状	△	B	5肢択二	適切選択
135	㉓	労働安全衛生法・ストレスチェック制度	○	B	5肢択二	適切選択
136	⑥	英語学習法の効果検証の実験計画	事例	B	5肢択一	適切選択
137	⑭	26歳男性・テストバッテリー	事例	B	5肢択一	適切選択
138	㉐	36歳男性・転職に対する後悔	事例	B	5肢択一	適切選択
139	⑱	15歳男子・作業同盟の構築	事例	B	5肢択一	適切選択
140	⑰	50歳女性・要介護2の母親との生活	事例	C	5肢択一	適切選択
141	⑯	21歳男性・学生相談室	事例	C	5肢択一	適切選択
142	㉐	32歳女性・社内の健康管理室	事例	B	5肢択一	適切選択
143	⑰	5歳男児・児童養護施設	事例	B	5肢択一	適切選択
144	⑰	9歳男児・市の相談センター	事例	C	5肢択一	適切選択
145	⑱	5人の中学生・内発的動機づけ	事例	C	5肢択一	適切選択
146	⑱	9歳男児・学校の取り組み	事例	C	5肢択一	適切選択
147	⑱	11歳女児・スクールカウンセラーの対応	事例	C	5肢択一	適切選択

問	BP	問題内容	反映	難度	解答形式	選択内容
148	⑱	40歳女性・交通事故の遺族	事例	C	5肢択一	適切選択
149	㉓	45歳男性・関係者の対応	事例	B	5肢択一	適切選択
150	⑥	Muller-Lyer 錯視の実験計画	事例	B	4肢択一	適切選択
151	⑮	20歳の男性・行動療法	事例	B	4肢択一	適切選択
152	⑰	21歳女性・子育て支援	事例	B	4肢択一	適切選択
153	⑭	28歳女性・PTSDの症状	事例	C	4肢択一	不適切選択
154	⑭	70歳男性・認められる症状	事例	B	5肢択二	適切選択

※表中の難易度や分類などは、河合塾 KALS の独自の判断によるものです。個々の理解や価値観により、難易度や分類は異なります。あくまで参考に留めて頂きたいと思います。

※本資料の無断転載・無断転用を禁じます。